

# 刀根早生優良早生系統（通称）「上平早生」の導入推進

## 要約

9月中旬に収穫を終えることができる「刀根早生」の枝変わりとして発見された優良系統「(通称)上平早生」の産地への導入に向けて、労働時間と収穫量の調査、未収益期間短縮技術実証圃の設置、改植による転換経営モデルの作成を行った。

## 現状(背景)と課題

- ・昭和50年代の国営の農地開発事業により出来たパイロット団地を中心に、豊産性である「刀根早生」の導入が進み、現在30~40年生の成園が多くなっている。それに伴い10月の極端な作業ピークが問題となっており、ピークの分散が必要となっている。
- ・そこで、「刀根早生」より1週間程度早く収穫できる(通称)「上平早生」への品種転換の誘導を推進してきたが、未収益期間の発生がネックとなり導入が進んでいない。(平成29年 13.1ha)

## 目標

- ・「刀根早生」から通称「上平早生」への品種転換のメリットを示しながら「上平早生」の産地への導入を進め、「上平早生」の栽培面積を20ha以上にする。

## 活動内容

- ・「刀根早生」と「上平早生」の労働時間(摘蕾、摘果、収穫)と収穫量の調査・比較
- ・未収益期間短縮技術の展示実証
- ・転換経営モデルを示して経営改善の可視化

## 成果

- ①労働時間と収穫量について、「刀根早生」と「上平早生」で差の無いこと、「上平早生」が9月中旬に収穫できることを確認した。
- ②未収益期間短縮技術として高接ぎ一挙更新の展示を行い、高接ぎ2年後に2t/10aの収穫が可能であることを確認した。
- ③改植を行った際の転換経営モデルを作成し生産者に提示することで、品種転換への誘導を行った。令和元年度末には、20.2haまで導入が進んだ。



高接ぎ講習会

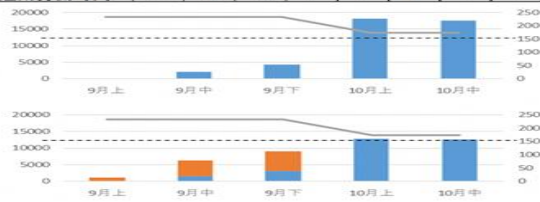


労働時間調査(摘蕾、摘果、収穫)

◆品種別面積 (a)	現状	導入後	◆家族労働力
刀根早生	140	100	3人
上平早生	0	40	8日/旬
			9時間/日

◆労働時間分布(時間)	現状	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月上	9月中	9月下	10月上	10月中	10月下	11月	12月	合計
刀根早生	176	164	33.6	308	154	18.2	270	47.6	14	36.4	72.8	309.4	309.4	0	0	0	4.2	1918
上平早生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	176	164	33.6	308	154	18.2	270	47.6	14	36.4	72.8	309.4	309.4	0	0	0	4.2	1918
家族労働時間	648	648	648	648	648	648	648	648	648	216	216	216	216	216	216	648	648	7776
雇用労働時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	93.4	93.4	0	0	0	186.8

◆導入後	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月上	9月中	9月下	10月上	10月中	10月下	11月	12月	合計
刀根早生	126	117	24	220	110	13	193	34	10	26	52	221	221	0	0	3	1370
上平早生	50.4	46.8	9.6	88	44	5.2	77.2	13.6	25.2	85.2	101.6	0	0	0	0	1.2	548
計	176	164	33.6	308	154	18.2	270	47.6	35.2	111.2	153.6	221	221	0	0	4.2	1918
家族労働時間	648	648	648	648	648	648	648	648	216	216	216	216	216	216	648	648	7776
雇用労働時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	10



◆収穫時期	現状	9月上	9月中	9月下	10月上	10月中	合計
刀根早生	0	2100	4200	18060	17640	42000	0
上平早生	0	0	0	0	0	0	0

◆導入後	9月上	9月中	9月下	10月上	10月中	合計
刀根早生	0	1500	3000	12900	12600	30000
上平早生	1200	4800	6000	0	0	12000

◆収益一労賃	9月上	9月中	9月下	10月上	10月中
単価	233	233	233	173	173

	現状	導入後	増減
収益	7,644,000	8,256,000	612,000
労賃	224,160	12,000	-212,160

転換経営モデルの作成

### 普及活動のポイント

- 品種転換を誘導するために、事前に管内の果樹農家へ品種や面積、樹齢等の各経営体の情報を収集し、具体的な数値を基に転換経営モデルの作成を行った。

### 対象の変化

- 講習会等で啓発活動を行うことで、農業者から「上平早生」の産地への導入の重要性を理解いただき、導入面積も年々増加している。

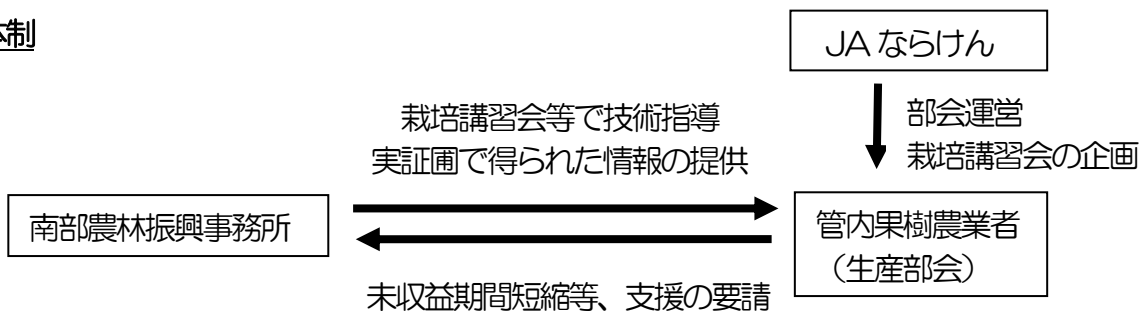
### 対象者からのコメント

- 産地にとっても必要な時期に収穫できる奈良で見つけた系統であり、重要性を感じている(柿農家)。
- 環状はく皮処理に代わる早期出荷対策として期待している(柿農家)。

### これからの活動ビジョン

- 高接ぎによる品種転換では早期に収穫できるメリットはあるが、樹開が乱れやすく、長く使うには生産性、作業性ともに優れないため改植と組み合わせた未収益期間の短縮技術の実証を行う。
- 引き続き講習会等で啓発活動を行い、導入推進を行う。

### 活動体制



### 用語解説

**高接ぎ**  
台木の太い枝を切ったところへ枝を接ぎ、品種の更新や、老木の樹勢を取り戻す際に用いられる技術。

**環状はく皮処理**  
柿の枝の外皮と内皮と形成層を5mm程度の幅で、一周に渡りはがす処理のことで、処理した枝の実は早く色づき大きく生育する。ただ、処理にはかなり手間がかかり、台風の被害があったとき折れやすいというデメリットもある。